

東照公御遺訓

人の一生は重荷を負て遠き道を
ゆくが如し

いそぐべからず

不自由を常とおもえば不足なし

こころに望おこらば困窮したる

時を思ひ出すべし

堪忍は無事長久の基

いかりは敵とおもへ

勝事ばかり知て

まくる事をしらざれば

害其身にいたる

おのれを責て人をせむるな

及ばざるは過たるよりまされり

徳川家康の遺訓

人の一生というものは、重い荷物を
背負つて遠い道を行くようなものだ。

急いではいけない。

不自由が当たり前と考えれば、不満
は生じない。

心に欲が起きたときには、苦しかつ
た時を思い出すことだ。

我慢することが無事に長く安らかに
いられる基礎で「怒り」は敵と思いな
さい。

勝つことばかり知って、負けを知ら
ないことは危険である。

自分の行動について反省し、人の
責任を攻めてはいけない。

足りない方がやり過ぎてしまってい
るよりは優れている。

とうしょうこうごいくん
照公御遺訓

人の一生は重荷を^{おもに}負^{をひ}て遠き
道をゆくが如し いそぐべからず

不自由を常とおもへば不足なし

ころに^{のぞみ}望 おこらば^{こんきゆう}困 窮 したる

時を思ひ出^{いだ}すべし 堪^{かん}忍^{にん}は無^ぶ事^じ

ちようきゆう^{もとい}の基 いかりは敵とおもへ

かつこと^{しり}勝事ばかり知てまくる事をしら

ざれば^{がいそのみ}害 其身にいたる おのれ

を^{せめ}責て人をせむるな 及ばざる

は^{すぎ}過 たるよりますれり